

港町小樽の繁栄を象徴する近代建築

14 きゅう にっぽん ゆうせん かぶしき がいしゃ おたる してん

旧日本郵船株式会社小樽支店

- 所在地：小樽市色内3丁目7番8号
- 問合せ先：小樽市教育委員会教育部生涯学習課（TEL 0134-32-4111）



明治39（1906）年10月に竣工した、日本郵船株式会社小樽支店の2代目の社屋です。

日本郵船は小樽港の将来性にいち早く着目し、明治11（1878）年、前身の「郵便汽船三菱会社」時代に小樽進出を果たしました。明治18（1885）年、合併を経て「日本郵船会社」を設立してからも小樽港を中心に順調に航路を伸ばしていく中、小樽支店は明治36（1903）年の大火で全焼する被害を受けました。

新社屋の設計者として選ばれたのが、工部大学校造家学科（東京大学工学部建築学科の前身）の第一期生のひとり、佐立七次郎（1856～1926）です。

設計に当たり、佐立は恩師J.コンドルの教えを誠実に継承しました。外観はギリシア・ローマ時代のデザインを取り入れた「近世ヨーロッパ復興様式」を採用し、外壁の石柱飾りや、1階カウンター

に施された繊細な彫刻をはじめとする室内装飾も佐立が設計しました。また、デザイン性のみならず実用性にも配慮し、防火シャッターやスチーム暖房が取り入れられています。さらに、アメリカ製のシャッター、ドイツ製のリノリウムなどの輸入品の建具や、2階壁紙に使用された国産の「金唐革紙^{きんからかわかみ}」など、建物全体が当時の最高級品で統一されています。

竣工以来、昭和29（1954）年まで日本郵船株式会社小樽支店として営業していましたが、現在は市が譲り受け、日本を代表する近代建築として建物内を一般公開しています。

※平成30年11月より、令和5年度（予定）まで保存修理工事のため公開を休止しています。なお、工事の進捗により休館期間が変更する場合があります。



【写真】1 旧日本郵船株式会社外観 2 会議室 3 貴賓室 4 金唐革紙